

東京都福祉サービス第三者評価 評価結果

評価結果基本情報

評価年度	令和6年度
サービス名称	認可保育所
法人名称	社会福祉法人白鳩会
事業所名称	浜竹保育園
評価機関名称	株式会社 地域計画連合

コメント

- ・事前説明にあたっては、令和6年度方式の評点基準、確認根拠資料の準備について、わかりやすい独自資料を用意し、事業者の負担を軽減する工夫を行っている。
- ・分析シートは記入のポイントを用意し、効果的、効率的に情報が整理できるよう工夫を行っている。
- ・確認根拠資料は、訪問調査の概ね3週間前までに評価機関への提出を依頼し、根拠の事前確認を行ったうえで訪問調査を実施し、訪問当日は事業所の課題や良い点を把握するためのヒアリングに重点を置いて実施している。
- ・合議は、訪問調査終了後、同じ日のうちに、速やかに実施している。

(内容)

- I 事業者の理念・方針、期待する職員像
- II 全体の評価講評
- III 事業者が特に力を入れている取り組み
- IV 利用者調査結果
- V 組織マネジメント項目（カテゴリー1～5、7、8）
- VI サービス提供のプロセス項目

公益財団法人東京都福祉保健財団

Copyright©2003 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

I 事業者の理念・方針、期待する職員像

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など） 1）こども達の個性と人格を尊重し、生きる力を育む保育の実施 2）こども達が主体的に生き生きと生活・活動できる環境を整える 3）保護者との信頼関係を築き、安心して預けられる保育園づくり 4）日々の保育の中で家族と共に、その成長・発達の援助を行う 5）地域における子育て支援のため、専門性を高め有効活用する
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	（1）職員に求めている人材像や役割 ・乳幼児の健全な育成を目指すためには、保育者自身が心豊かな人間性と人権を大切にする人。・職務に対し誠実さと意欲を持ち、チームワークを大切にする人が望まれます。
	（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） ・組織人としてチーム構築と自己研鑽に努め、保育方針や目標を共有し、浜竹保育園の保育の質向上に積極的に取り組むことを期待している。

II 全体の評価講評

全体の評価講評

特に良いと思う点

1	保育理念や方針、目標が明確であり、理解を深める取り組み等により、職員から保育がしやすいという声がある 保育理念や方針、目標を玄関や事務所だけでなく各クラスにも掲示しており、年度初めには理念等が明記された全体的な計画や事業計画を読み合わせして理解が深まる取り組みをしている。今年度園庭に芝生を植え保育方針にあるように、こどもたちが主体的に生き生きと安全に生活・活動ができる環境づくりをしたり、職員の専門性を活用し、在園児や地域の子育て支援をしている。職員調査でも保育の土台や理念がしっかりしているから保育がしやすいという声がある。
2	保護者とのコミュニケーションを大切にし、信頼関係を構築している 施設に対する総合満足度は非常に高く、保護者から大きな信頼を寄せられている。利用者アンケートでは、職員の温かさや丁寧な接遇に感謝や信頼する声が多くあった。保護者会を年2回実施し、写真つきのプレゼン用ソフトを用いて保育理念を伝えたり、年齢ごとの成長発達の様子を日常生活の場面と合わせてわかりやすく説明をしている。また、個人面談や「すすくカード」を用いて家庭と共に目標を立てながら子育てを支援している。保護者との良好な関係づくりのために、保護者の思いや要望、意見を大切にし、丁寧な対応を心がけている。
3	園内研修や外部講師からの学びを積極的に取り入れ、保育実践を積み重ねることで、保育の質の向上を目指している 園全体の保育や個々の職員の向上に向けて、外部講師による研修や区の研修、園内研修など様々な学びの視点からの職員育成に力を入れている。文献を読み合い、意見交換の場を設けたり、不適切保育や人権に配慮した保育についての事例を持ち寄り、園内研修で学び合っている。グループ研修では、より意見が発信しやすいように経験年数の近い職員を一緒にグループにするなど、積極的な意見交換ができることを大切にしている。研修は、様々な勤務形態の職員も、できるだけここの研修には参加しやすいように昼夜、時間を分けて計画している。

さらなる改善が望まれる点

1	公設民営園としてのキャリアパス促進方法について、自治体と話し合うことが望まれる 職責や職務内容に応じた長期的展望であるキャリアパスについて、職員に職務分担表でそれぞれの役割を知らせたり、経験年数ごとに園が求めていることを提示しているが、キャリアパスには連動していない。公設民営園としてのキャリアパス促進方法について自治体と話し合うことが望まれる。園長は育成面談で職員のスキルアップや得意なことを把握し、研修へとつなげているが、同じ職種内でステップアップを明確にするキャリアラダー作成の検討も期待される。
2	利用者アンケートでも保護者から高い満足度が得られているが、さらなる保育の質の向上に向けてマニュアル活用の工夫が期待される 利用者アンケートでは、園の方針や保育の取り組み、職員の対応に関して高い評価と感謝の記述も多く、職員との信頼関係の良好さや保護者満足度の高さが伺える。しかし、園の業務においては、マニュアルが整備されているものの区や法人のマニュアルの量が多く、法人のものを一部、園に即したものに改訂し、使いやすくするなど工夫をしているが、活用が十分にできていないと言いはし難い。職員の経験年数、勤務年数に関わらず、全職員が活用できるような手順書やマニュアルを整備し、職員間の情報共有が円滑になり、更なる保育の向上に期待したい。
3	保護者との情報共有のツールとして、利便性も加えたデジタル化の進捗が望まれる 園内には保護者に取り組みを伝える写真や掲示物も多くあるが、それらの情報は園に足を運ばなければ受け取ることができない。すでにシステムの導入はされているが、手紙類はほとんど紙媒体で配布している。現在アプリの利用は登降園の打刻と災害時の緊急配信のみにとどまっており、利用者アンケートでもお便り、連絡帳、写真など利便性のあるアプリの活用を望む声があった。園では温かみのあるやり取りを大事にしたいことや個人情報の点などの課題について検討し、デジタル化の進捗が望まれる。

III 事業者が特に力を入れている取り組み

1	★ 発言しやすい環境づくりを心掛け全員の意見を聞いたうえで運営方針を決定している 経験年数ごとに4グループに分けて園内研修を行い、出された意見は肯定的に受け止め、発言しやすい環境づくりを心掛けている。クラス打ち合わせ時にも一人ひとりに発言する機会を作り、全員の意見を聞いたうえで運営方針を決定している。重要な案件は該当クラスだけでなく事例研修として全体で話し合い周知徹底を図っている。職員調査でも職員間で情報共有がしっかりしており、目標に向かって知恵を出し合い力を出し合えるという声が多い。
関連評価項目(職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる)	
2	★ 職員の学び合いを通して、こどもが主体的に遊べる環境の向上に繋げている こどもの主体性を育むために、職員は「主体性」や「人権」についての文献を読み合い学び合い、保育の向上に向けて取り組んでいる。保護者に向けてもお便りの中の園長コラムで「主体性を育む保育」のテーマで、園が目指している保育を丁寧に伝えている。日々の保育ではこどもたちが主体的、自発的に遊びに取り組めるように、環境を整え工夫している。環境空間はこどもの身体の成長や運動機能の発達も考慮し、年齢に合わせた空間となっている。こどもが落ち着いた生活の中で様々な事象に関心を持ち、自発性や主体性を発揮できるように努めている。
関連評価項目(子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている)	
3	★ こどもの生活がより豊かに展開されるよう行事に取り組んでいる 行事は日常の保育の延長上にあり、その上で「こどもたちが楽しいこと」と「季節や伝統文化の伝承」を考えて取り入れている。計画からこどもたちが参加して充実感や達成感が深まるよう援助したり、その成果を保護者等にもみてもらう機会を作り、こどもたちが他者から承認される喜びを持てるようにしている。職員間で連携を図り、地域の保育園、図書館、高齢者施設や商店街など様々な人と関わることでできる行事も取り入れて、こどもたちが近隣環境に興味を持ったり、より豊かな生活経験となるよう配慮している。
関連評価項目(日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している)	

調査概要

調査方法：アンケート方式

利用者総数	138人
利用者家族総数（世帯）	112世帯
アンケートや聞き取りを行った人数	112人
有効回答者数	91人
回答者割合（％）	81.3％

総合満足度（大変満足、満足を合計した割合）は、（98%、89人）となっている。●各設問のうち、「はい」の比率が高かった上位は、以下の項目であった。問1．園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っていると思いますか（100%、91人）問2．園での活動は、お子さんが興味と関心を持って行えるものになっていると思いますか（98%、89人）問9．園内は清潔で整理された空間になっていると思いますか（96%、87人）

1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか							
はい	91人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
友達や先生とのふれあいの中、人との接し方や距離感等、家だけでは伝えきれないものを学んでいると感じます。同い年のお友だちとの関わり、両親以外の大人である保育者との関わりは子供にとって貴重な経験であり、人生における財産になると思っています。身近な社会や自然の事象に触れられる活動をし、生活の中で、発見の楽しさ、思考の楽しさに気付ける。などの意見があった。							
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか							
はい	89人	どちらともいえない	2人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
家ではなかなかできないことをたくさん経験させてもらっています。遊びや学び、多種多様なプログラムを先生たちが考えてくれていると感じます。自宅に帰って、保育園での出来事を話してくれたり、その日にやった遊びなどを披露してくれる様子を見て、楽しいのだろうと思いました。などの意見があった。							
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか							
はい	84人	どちらともいえない	6人	いいえ	0人	無回答・非該当	1人
食育で、素材に触れたり、実際に作ってみたりと子ども参加型のプログラムを取り入れてもらっているのがあります。家だけでは、食事の種類が偏るので、色々提供してくれて、参考にもなっている。季節を感じられるメニューがあり、食事・おやつを楽しめるよう工夫されている。などの意見があった。							
4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか							
はい	85人	どちらともいえない	5人	いいえ	1人	無回答・非該当	0人
行事は充実していますが、戸外遊びの機会がもっと増えると良いと思います。ここに来る前の保育園では毎日園外での散歩をしていました。近くの様々な公園へお散歩へ出掛けてくれています。また、年間を通じて日本の昔からある行事も積極的に取り入れて頂いています。コロナ禍では難しいことも多かったですが、可能な範囲で努力頂き感謝しております。などの意見があった。							
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか							
はい	73人	どちらともいえない	16人	いいえ	1人	無回答・非該当	1人
家庭の事情も気にかけてくださり助かっています。嫌な顔せず常に保護者の立場を考えた対応をして頂いています。有難いです。延長の枠が空いていれば、急な延長にも対応してくれる。電話での対応もすごく感じがいい。などの意見があった。							
6. 安全対策が十分取られていると思うか							
はい	78人	どちらともいえない	11人	いいえ	2人	無回答・非該当	0人
地震、水没など色々なケースの想定のもと、防災避難訓練をしてくれています。災害時の訓練も定期的に行われています。また、廊下を走る園児には的確に注意を行っております。危険な箇所などは指摘をすると直ぐに改善してくれるため有難いと感じている。などの意見があった。							
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か							
はい	74人	どちらともいえない	15人	いいえ	2人	無回答・非該当	0人
土曜日に設定して下さるので有難いです。年2回の保護者会は、一度は平日、もう一度は土曜日と分かれていて、多様な家庭に配慮いただいている。また保護者会の後に園児の発表会を設けるなど、仕事や私生活への負担を考えた設定になっていると感じる。などの意見があった。							
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか							

はい	74人	どちらともいえない	17人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
担任の先生以外の先生も子どもの名前を覚えてくれているので話しやすいです。先生方が子供について気軽に相談できる環境を作ってくれている。子供には伝えて欲しくない話などを話す時は扉を閉めるなど配慮してくれる。園長先生に相談したいことなども、直ぐに時間を作ってくれるため相談しやすく非常に助かっている。なかなか親自身が忙しい中ではありますが、お時間を提案すれば対応頂けると思います。などの意見があった。							
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか							
はい	87人	どちらともいえない	4人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
園内だけでなく、園回りの清掃も行き届いていると思います。清掃員さんも挨拶や会話をして下さりとても心地良い環境整備と感じております。コロナ以降、特に清潔にしてくれています。先生方の負担も大きく感じます。などの意見があった。							
10. 職員の接遇・態度は適切か							
はい	76人	どちらともいえない	15人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
子どもたちへの対応の仕方を真摯にしてもらっていることがありがたいです。子供が接しやすい雰囲気です。言葉遣い、態度は適切。園児を一人の人として接していただけている。高圧的な態度、意地悪な表現などはない。などの意見があった。							
11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか							
はい	81人	どちらともいえない	8人	いいえ	2人	無回答・非該当	0人
保健担当の先生はすごく丁寧にご対応いただいています。病院に行ったほうがいい場合は、病院が空いてる時間に間に合うように連絡いただいたり、怪我も丁寧に状況説明と対処してくれています。急を要する場合にはすぐに連絡をいただける。軽い怪我であっても迎え時に伝言していただける。などの意見があった。							
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか							
はい	72人	どちらともいえない	17人	いいえ	2人	無回答・非該当	0人
その日のうちに申し送りをして下さり早急に対応ができています。トラブルになった両者に寄り添って対応して頂いていると思います。双方の気持ちに寄り添って、合理的に解決している印象がある。などの意見があった。							
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか							
はい	82人	どちらともいえない	9人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
卒園児であっても気にかけてくれたり、相談に乗ってくれていて大変ありがたい。自由にのびのびと過ごさせてくれているようで、保育園に行くのが楽しそう。一人の人間として接していただいている。子の気持ちに大変よく寄り添っていただいている。などの意見があった。							
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか							
はい	76人	どちらともいえない	14人	いいえ	1人	無回答・非該当	0人
プライバシーに関しては不安に感じて一度意見を述べたことがあったが、その後は配慮していただいていると思う。声をかけるタイミングなどやお迎えの時など、他の保護者と重ならないタイミングにしてくれている気がする。などの意見があった。							
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか							
はい	80人	どちらともいえない	9人	いいえ	2人	無回答・非該当	0人
説明だけでなく、イベントごとの写真つき掲示などがあります。保護者会の際には子供の写真付きのパワーポイントを用いて園での様子を詳しく説明していただきました。多くの園児がいる中で、我が子のことをよく見てくれているな、と感心します。などの意見があった。							
16. 利用者の不満や要望は対応されているか							
はい	76人	どちらともいえない	14人	いいえ	1人	無回答・非該当	0人
不満に思うことがないです。子供に関しての心配事を相談すると対応が素早いので、きっと対応してくれるかと思ってます。対応も説明もしてくれます。要望の背景も確認いただき、きちんと対応していただいている印象。などの意見があった。							
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか							
はい	61人	どちらともいえない	23人	いいえ	6人	無回答・非該当	1人
わかりやすく掲示してある。ポスター掲示など色々あります。などの意見があった。							

V 組織マネジメント項目（カテゴリー1～5、7、8）

※実施あり：○、実施なし：×、非該当：-

カテゴリー1 リーダーシップと意思決定			
サブカテゴリー1 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている			
評価項目1	事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を周知している		実施状況
標準項目1	事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている		○
標準項目2	事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている		○
評価項目2	経営層（運営管理者含む）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		実施状況
標準項目1	経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている		○
標準項目2	経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している		○
評価項目3	重要な案件について、経営層（運営管理者含む）は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		実施状況
標準項目1	重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている		○
標準項目2	重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している		○
標準項目3	利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている		○
講評			
理念等が明記された事業計画等を読み合わせして理解を深める取り組みをしている 保育理念や方針、目標を玄関や事務所だけでなく各クラスにも掲示しており、全職員にはラミネートした保育理念等を配布し、書類提出ファイルに入れて常に確認できるようにしている。また、新人のオリエンテーションや職員会議でも理念等について説明をし、年度初めには理念等が明記された全体的な計画や事業計画を読み合わせして理解を深める取り組みをしている。保護者に対してはホームページや玄関での掲示と、入園説明や園見学、保護者会等で理念等を説明している。			
園長は事業計画の読み合わせ時に、方向性と役割と責任を伝え、リードしている 園長は、年度初めの事業計画の読み合わせ時に、各職員の役割について提示したり、各クラスの打ち合わせ時にも参加し、保育の方向性を確認するなど、経営層は園が目指していることの実現に向けて役割と責任を伝え、リーダーシップを発揮している。年度末には全体会議で理念や方針に沿った保育ができていたか確認し、次年度の計画につなげている。その際、ポジションごとに年間を4期に分けて反省を記入し、計画を見直すようにしているが、まとめたの発表が年度末になり、中間発表をする機会を設けたいとしている。			
リーダー会議や職員会議での決定事項は、すぐにクラスに知らせている 年1～2回法人の理事会が開催され、事業計画や事業報告の発表と今後の方向性が打ち合わされる。また、園長は地区園長会や区立保育園園長会にも参加し、打ち合わせ内容を持ち帰り、リーダー会議や職員会議で報告し、決定事項はすぐにクラスに知らせている。口頭だけの確認にならないように、事務所付近の棚に記録を設置し、全員が閲覧できるようにしている。保護者に対しては、決定内容や決定経緯を掲示したり、電子伝達システムで配信して伝えている。			

※実施あり：○、実施なし：×、非該当：-

カテゴリー2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行			
サブカテゴリー1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			
評価項目1	事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		実施状況
標準項目1	利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している		○
標準項目2	事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している		○
標準項目3	地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している		○
標準項目4	福祉事業全体の動向（行政や業界などの動き）について情報を収集し、課題やニーズを把握している		○
標準項目5	事業所の経営状況を把握・検討している		○
標準項目6	把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している		○
サブカテゴリー2 実践的な計画策定に取り組んでいる			
評価項目1	事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		実施状況
標準項目1	課題をふまえ、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた中・長期計画を策定している		○
標準項目2	中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している		○
標準項目3	策定している計画に合わせた予算編成を行っている		○
評価項目2	着実な計画の実行に取り組んでいる		実施状況
標準項目1	事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた、計画の推進方法（体制、職員の役割や活動内容など）、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している		○
標準項目2	計画推進にあたり、進捗状況を確認し（半期・月単位など）、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる		○
講評			
年度途中のアンケート調査等で早期に職員の意向を把握することが期待される 保護者からは行事や保護者会の後には感想とともに園の運営についても意見を聞いており、年度途中での新しい取り組みについては1～2か月後にアンケートを行い、改善が必要なことについてはリーダーで話し合い、結果をお便りで伝えている。職員の意向は園長が育成面談時に把握しているが、アンケートは行っていない。今回の第三者評価の職員調査で数々の改善すべき意見が記載されており、年度途中のアンケート調査等で早期に職員の意向を把握することが期待される。			
地域会議等で把握したニーズ等は、リーダー打ち合わせで検討し職員会議で周知している 地域の福祉の現状については、園長を中心に保育施設会議等3つの地域会議に参加し、情報を得るだけでなく、子育て支援等について話し合い、実施の方法や体制について検討している。当園の姉妹園が私立のため、異なる情報も得ることができる。外部研修にも積極的に参加し、保護者支援等について学び、研修報告書ファイルに収納して誰でも閲覧ができる。把握したニーズ等はリーダー打ち合わせで検討し、職員会議で職員に周知している。			
保育理念や方針を達成すべく、計画の推進方法として年間を4期に分けて反省している 区や法人の計画を踏まえて、園長は令和5年度から令和7年度の中長期計画と全体的な計画および今年度事業計画を策定し、さらに単年度計画としての行事計画や年間指導計画を策定している。全体的な計画や事業計画に明記された保育理念や方針を達成すべく、計画の推進方法として各クラスで年間を4期に分けて進捗状況等の反省をし、月ごとにもクラスで振り返り、現状や課題について話し合っている。			

カテゴリー3 経営における社会的責任			
サブカテゴリー1 社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる			
	評価項目1	社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる	実施状況
	標準項目1	全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳を含む）などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○
	標準項目2	全職員に対して、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳を含む）などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。	○
サブカテゴリー2 利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている			
	評価項目1	利用者の意向（意見・要望・苦情）を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている	実施状況
	標準項目1	苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○
	標準項目2	利用者の意向（意見・要望・苦情）に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○
	評価項目2	虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている	実施状況
	標準項目1	利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常的言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○
	標準項目2	虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○
サブカテゴリー3 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている			
	評価項目1	透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる	実施状況
	標準項目1	透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○
	標準項目2	ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○
	評価項目2	地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている	実施状況
	標準項目1	地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○
	標準項目2	事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク（事業者連絡会、施設長会など）に参画している	○
	標準項目3	地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○
講評			
「園長コラム」は全職員が守るべき規範等の理解を深める取り組みとなっている 年度始めの職員会議で全国保育士会倫理綱領や言葉・接し方のノウハウともいうべき「人権を配慮した保育」、「職員としてあるべき姿」および安全保育等の資料を配布し、職員が守るべき法や規範等について読み合わせと事例を挙げながら確認を行っている。また、「園長コラム」では「子どもの主体性を育てる」等について園長の考えをわかりやすく解説しており、全職員が守るべき規範等の理解を深める取り組みとなっている。 電子通信システムの限定的な利用を見直すことを検討する時期にきているように思われる 透明性を高めるために、その日の保育活動を文面で保護者が閲覧できるようにしたり、園内にトピックスを掲示し、文字だけでなく写真から子どもたちの活動を伝える取り組みがある。また、保護者会で年間の保育の様子をプレゼン用ソフトでわかりやすく伝えている。ただ、利用者調査でも保護者からお便りや連絡等を電子通信システムを利用して伝えてほしいとの声があるように、電子通信システムの限定的な利用を見直すことを検討する時期にきているように思われる。 子育て支援として、離乳食講習会で専門職による指導をしている 地域の福祉ニーズに基づき、未就園家庭の交流の場となるように、原則月1回「はまっこくらぶ」で子育て支援を開催し、身長体重の計測や子育て相談、栄養士による離乳食講習会で専門職による指導をしている。園が地域の一員として園長を中心に地区別園長会や地域会議、地域連絡会議に参加し、情報交換や課題について検討している。また、年長児が近隣園に行きゲームや発表会で交流したり、保幼小連携としての小学校体験や近隣老人施設及び図書館等の地域資源との地域ネットワーク内で協働体制がある。			

カテゴリー4 リスクマネジメント

サブカテゴリー1 リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる			
評価項目1		事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる	実施状況
	標準項目1	事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク（事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など）を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○
	標準項目2	優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○
	標準項目3	災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画（BCP）を策定している	○
	標準項目4	リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○
	標準項目5	事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○

サブカテゴリー2 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている			
評価項目1		事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている	実施状況
	標準項目1	情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員（実習生やボランティアを含む）が理解し遵守するための取り組みを行っている	○
	標準項目2	収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○
	標準項目3	情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○
	標準項目4	事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○

講評

BCPについて保護者への周知のためにホームページや園案内への掲示が期待される

リスクマネジメントとしては、災害時や不審者対策を筆頭に、それぞれのリスクに対して対策をとっている。例えば警察の協力のもとに不審者対応訓練を含めた防犯訓練を実施している。業務継続計画（BCP）については、区の業務継続計画に沿って必要な部分は引用し、園でなくては策定できない被害想定や自衛消防組織表、役割分担等の部分は園で計画しており、よくまとめられている。BCPについての職員の理解度は高いが、保護者への周知が不十分のようで、ホームページや園案内への掲示が期待される。

パソコン内の情報はパスワードでアクセス制限をするなど、情報漏洩防止に努めている

個人情報の取り扱いについて、入職時と年1回研修を行い、テストも実施して周知徹底を図っている。ボランティアや実習生とは誓約書を取り交わしている。パソコン内の情報はパスワードでアクセス制限をしたり、職員室外への持ち出しを禁止するなど、個人情報について読み合わせをして重要情報の漏洩防止に努めている。重要書類は閉園時に鍵のかかるキャビネットで保管している。児童表は使用管理簿で持ち出しの際は詳細がわかるようになっている。

カテゴリ5 職員と組織の能力向上			
サブカテゴリ1 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる			
評価項目1	事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		実施状況
標準項目1	事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		○
標準項目2	事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		○
評価項目2	事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		実施状況
標準項目1	事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望（キャリアパス）が職員に分かりやすく周知されている		○
標準項目2	事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望（キャリアパス）と連動した事業所の人材育成計画を策定している		×
評価項目3	事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		実施状況
標準項目1	勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		○
標準項目2	職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成（研修）計画を策定している		○
標準項目3	職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成（研修）計画へ反映している		○
標準項目4	指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		○
評価項目4	職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		実施状況
標準項目1	事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇（賃金、昇進・昇格等）・称賛などを連動させている		○
標準項目2	就業状況（勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど）を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		○
標準項目3	職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		○
標準項目4	職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		○
サブカテゴリ2 組織力の向上に取り組んでいる			
評価項目1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		実施状況
標準項目1	職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		○
標準項目2	職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		○
標準項目3	目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる		○
講評			
自治体とのキャリアパスのシステム化について話し合いが望まれる			
職責や職務内容に応じた長期的展望であるキャリアパスについて、職員に職務分担表でそれぞれの役割を知らせたり、経験年数ごとに園が求めていることを提示しているが、キャリアパスには連動していない。区立でありながら公設民営園としての運営の難しさがあり、自治体のキャリアパス対象外となり、キャリアアップ研修の通知がないのが現状である。職員調査でもキャリアアップを取得できるようにしていきたいという声がある。園長は育成面談で職員のスキルアップや得意なことを把握し、研修へとつなげている。			
園内研修や事例研修、外部講師によるグループ研修等を積極的に行っている			
組織力の向上に向けて、職員会議の中で定期的に研修報告の機会を設けて受講内容の共有を図っている。さらに研修報告書をファイルし、職員は自由に閲覧ができる。クラス打ち合わせの際には、担当する子について意見を言う機会を設け、クラス運営についても全員の意見を聞いたうえで決定するルールにしており、コミュニケーションとチームワークの向上を図っている。事例研修では、該当クラスだけでなく全体の問題としてとらえ、意識の共有が図られている。			
組織力の向上に向けて、コミュニケーションとチームワークの向上を図っている			
園では、育成面談での職員の意向を反映して研修計画を立て、園内研修や事例研修、外部講師によるグループ研修などを積極的に行っている。また、自己研鑽として外部研修やオンライン研修などの自主研修を希望する職員には、費用を負担したり、シフトを配慮するなどの支援をしているが、個人の裁量に任せており、システム化が期待される。新人職員には、悩みなどの相談に応じるチューターを配置して定着率の向上を図っている。			

カテゴリー7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1 事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている		
評価項目1	事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている（その1）	
前年度の重要課題に対する組織的な活動（評価機関によるまとめ）	【課題・目標】令和4年度の取り組み中、産休復帰後や子育て中の職員も活躍できる職場風土や労働条件改善が課題であったため、令和5年度はそれらの見直し、改善を目標とした。 【取り組み】職員と労働条件の改善についてシミュレーションを交えて話し合い、 ①試行として公休5日増で割り振りをした。②子育て中の職員のシフト時間を緩和し、他の職員の理解を求めた。③全体的に延長番の回数が少なくなるように延長専任者を採用した。 【取り組みの結果】①職員間の協力体制やチームワーク力が高まった。②急な休みの場合は、お互いの休みについて他の職員と交換するなど、お互いを気遣い、声掛けするようになった。③クラスを越えてヘルプに入ったり、準備を手伝うなど連携が取れるようになった。 【今後の方向性】①今後も公休増を目指し、令和6年度は制度として実施する。②リフレッシュ休暇として計画を立てられてないため、有意義な休暇となるよう仕組みを確立していく。	
評語	目標の設定と取り組み	具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
	取り組みの検証	目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
	検証結果の反映	次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
【講評】 課題・目標として、令和4年度の取り組み中、産休復帰後や子育て中の職員も活躍できる職場風土づくりや職員調査にも働きやすさや有給休暇がしっかりとれる職場への要求があるように労働条件改善が課題であったため、令和5年度はそれらの見直し、改善を目標としたことは次の取り組みと合わせてPDCAのAに相当する。取り組みは組織的な活動で前述しており、取り組みの結果、令和5年度の事業報告書の運営方針に明記しているが、シフト体制が大変だったが、リーダー間で連携を取り、協力して乗り切った。また、公休と有給休暇を計画的に組み入れることで活動の計画が立てやすくなったとし、PDCAのDとCに合致する。今後の方向性として、令和6年度の事業計画の運営方針に、働きやすい環境づくりとやりがいを感じる保育について、職員間で検討しながら業務改善を進め定着率を挙げるとしておりPDCAサイクルを回している。		
評価項目2	事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている（その2）	
前年度の重要課題に対する組織的な活動（評価機関によるまとめ）	【課題・目標】不適切な対応や人権を脅かす事件が大きな社会問題となっている現在、「人権」や「SDGs」等、こどもを含め園全体で人や地球環境について考える保育実践をすることを目標とする。 【取り組み】①「こどもの人権を守る」をテーマに講師を呼びこども（4・5歳児クラス）・職員・保護者対象のワークショップを実施した。②SDGsの取り組みの中で、ごみ分別等のこどもの取り組みを写真や表で掲示し保護者にも伝えた。③不適切な対応に関してチェックリストを各職員に配布して自分で評価し皆で振り返りをした。④栄養士や看護師による食育や健康教育を幼児クラスを中心に定期的に実施した。 【取り組みの結果】①人権については職員の意識が高まり、一人ひとりのこどもに丁寧な対応をするようになった。②SDGsに関してこどもから質問するようになったり、関心を保護者にも広げられた。③食育や健康教育に関して掲示したり、親子で遊びながら学べる内容にしたことで、保護者への啓発につながった。 【今後の方向性】①人権の取り組みは今後も継続しこどもの対応については事例研修等で振り返りをしていく。②SDGsは広い視野を持つようにさらに様々なテーマに取り組んでいく。	
評語	目標の設定と取り組み	具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
	取り組みの検証	目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
	検証結果の反映	次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
【講評】 課題・目標として、大きな社会問題となっている「人権」や「SDGs」等について、こどもを含め園全体で人や地球環境について考える保育実践をすることを目標とすることは、令和5年度の事業計画の運営方針に明記されている。取り組みについては、組織的な活動として前述しているが、「こども人権ワークショップ」をこども・保護者・職員対象に実施したり、SDGsを幼児クラスを中心に計画実施したことが事業報告書に書かれている。取り組みの結果として、SDGs対策をわかりやすくした形でこどもたちに教え、実践していることは保護者に対しても良い啓発になると思われる。今後の方向性として令和6年度の事業計画に保育内容において人権問題やSDGsについては、従来の4、5歳児よりも下のこどもたちにも小さな取り組みから広げていくと明記している。		

VI サービス提供のプロセス項目（カテゴリー 6）

カテゴリー 6 サービス提供のプロセス			
サブカテゴリー1 サービス情報の提供			
評価項目1	利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		実施状況
標準項目1	利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		☐
標準項目2	利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている		☐
標準項目3	事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している		☐
標準項目4	利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している		☐
講評			
利用を希望する人に写真を多用したホームページやパンフレットで情報提供をしている 保育園の情報は、ホームページや見学者に配布するパンフレットに掲載している。ホームページから入手できる園の情報については、保育目標や年間行事予定などのほか、日常の保育や地域との交流、体育講師による運動遊びなど、写真を多用して紹介しているため、利用を検討している保護者がイメージがしやすくなっている。パンフレットにも写真や絵が豊富に用いられ読みやすく親しみやすい工夫がされている。 行政や関係機関等と連携し、地域の子育て家庭に向けて園の情報を提供している 地域の保育園の利用を希望される方や子育て家庭に向けて、近隣の児童館、図書館、園医などと連携しパンフレットの設置を依頼している。利用を希望される方が、より保育園に親しんでもらえるように、年6回程度保育園に遊びに来てもらう地域交流「はまっこくらぶ」を行っている。実施月によって運動遊びや制作、シャボン玉遊び、離乳食講習会など、様々な企画を計画し、園見学の際にははまっこくらぶのパンフレットをお渡しして参加を呼びかけている。保育士、看護師、栄養士、それぞれの専門職が必要に応じて参加された方の子育て相談にも対応している。 保育園についての問い合わせや見学について、丁寧な対応と説明を心がけている 園見学の希望者には、丁寧に対応できるよう努めている。見学は月に2回程度、予約制で実施している。決められた日程で都合が合わない場合は、個別に相談の上、日程変更にも柔軟に対応している。見学の案内は主任もしくは副主任が行い、1回につき、6名前後、40分～60分程度園舎内の案内と園の概要、保育園のルールなどを紹介し、見学者の質問にお答えしている。見学後はアンケートを取り、保育内容や園の向上にも活かしていきたいと考えている。			

サブカテゴリー2 サービスの開始・終了時の対応			
	評価項目1	サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている	実施状況
	標準項目1	サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○
	標準項目2	サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○
	標準項目3	サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○
	評価項目2	サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている	実施状況
	標準項目1	サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○
	標準項目2	利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○
	標準項目3	サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○
講評			
入園開始にあたり、面接及び入園説明時に基本的ルールや重要事項を説明している			
入園前の説明会では、健康診断や担当職員からの入園までに家庭で準備していただくものの説明、面談では、園長、看護師、栄養士から、こどもの成育歴や健康に関する内容、離乳食やアレルギーに関する内容、慣れ保育の予定などを順に確認している。4月1日にオリエンテーションを行い、重要事項説明書に沿って園の概要や理念方針、園のルール事項などを説明し、重要事項説明書に関する同意書にサインを頂いている。新年度に向けて、全職員で情報共有を行い、新入園児の受け入れ体制の準備をしている。			
保護者やこどもの不安に寄り添い、慣れ保育を通して個別状況に応じた対応をしている			
利用開始時に保護者の要望やこどもの状況を把握し、児童票を中心とする個人記録に記載し、クラス会議や職員会議でこどもの情報共有をしている。慣れ保育は保護者やこどもの不安に寄り添いながら、保護者の仕事復帰のタイミングを考慮し、期間や時間なども柔軟に対応している。利用開始時は特に保護者と担任との信頼関係を構築できるよう送迎時の対話や対応をできるだけ担任が丁寧に行うことで、不安軽減にも努めている。			
退園時には、こどもや保護者の不安が軽減できるような支援に努めている			
退園や転園時には、保護者やこどもの不安が軽減できるように、「いつでも遊びに来てね」など口頭で継続して子育て相談などを利用できることを伝え、支援の継続に努めている。区内の保育園に転園する場合は、保護者に転園に際する同意を得て児童票を転園先に引き継いでいる。卒園時には、小学校へ保育所児童保育要録や就学支援シートを提出し、こどもの情報を小学校と共有し、継続した連携と支援ができるように努めている。			

サブカテゴリー3 個別状況の記録と計画策定			
	評価項目1	定められた手順に従ってアセスメント（情報収集、分析および課題設定）を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している	実施状況
	標準項目1	子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○
	標準項目2	子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○
	標準項目3	アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○
	評価項目2	全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している	実施状況
	標準項目1	指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護（生命の保持・情緒の安定）と教育（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の各領域を考慮して作成している	○
	標準項目2	指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○
	標準項目3	個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況（年齢・発達状況など）に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○
	標準項目4	指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○
	標準項目5	指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	○
	評価項目3	子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している	実施状況
	標準項目1	子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○
	標準項目2	指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○
	評価項目4	子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している	実施状況
	標準項目1	指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○
	標準項目2	子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○
	標準項目3	子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○
講評			
こどもの育ちや発達の記録を決められた様式に記録し、定期的に見直しを行っている			
こども一人ひとりの心身の状況や生活状況、家庭状況については、入園時に保育時間や育児・園生活での心配事確認、健康上の心配事、入園前のお子様の様子、入園時健康診断などの記録を把握し、個々にファイリングしている。また、入園後の日々の園での生活の様子や発達状況を記録した個別指導計画、経過記録など、年齢に応じて毎月、あるいは期ごとにその様子を担任が詳細に記述し、関係職員と共有しながら次の指導に活かしている。このように、こども一人ひとりの情報は各種様式に記録している。			
全体的な計画をもとに各計画を立案し、保護者にこどもの育ちの目標や方針を伝えている			
全体的な計画には、保育理念、保育方針、保育目標、園目標などとともに、各年齢でのねらいや内容、支援のポイントを明示している。これを踏まえて年間指導計画を作成するとともに、月、週日の計画へと展開し、実施後の評価反省、次に生かすべき事柄を明記し、保育や次の計画策定等に活かしている。さらに、「すくすく」カードは、こどもの家庭の姿や園の姿を共有し、保護者の意向を組み入れながら個々の保育の目標を立て、大切にしたいことや育てたい力などを記載し、こどもの成長の変化を担当と保護者が共有し、わかりやすくなっている。			
会議や昼礼など様々な方法で情報を共有し、こどもへの理解を深めている			
職員会議やリーダー会議、クラス打ち合わせ、行事会議では、様々な会議を定められた時期に実施し情報の共有や課題等の話し合いを行い、保育の向上に努めている。園内研修で人権や不適切保育についての話し合いや学び合いを行うとともに、外部講師を招き、各クラスの事例を持ち寄り、講師からの助言をもとに話し合い学び合いながら、こどもへの理解を深めている。日々のこどもや保護者の情報共有は連絡ボードを活用し、毎日の昼礼、0歳児クラスの夕礼で共有している。会議に参加していない職員には議事録を回覧し、伝え漏れのないようにしている。			

サブカテゴリー4 サービスの実施			
	評価項目1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	実施状況
	標準項目1	発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○
	標準項目2	子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している	○
	標準項目3	子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○
	標準項目4	特別な配慮が必要な子ども（障害のある子どもを含む）の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○
	標準項目5	発達の過程で生じる子ども同士のトラブル（けんか・かみつきの等）に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○
	標準項目6	【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○

講評

こどもが主体的に関われるよう発達や年齢に合った環境づくりに取り組んでいる

こどもがやってみたい、参加してみたいと思えるような環境づくりを心掛け、年齢に合わせた玩具の種類や数を整えたり、目で見てすぐに手に取れることを大切にしている。応答的な対応に重きを置き、全職員で人権について共通理念を持ち対応できるよう、年度当初に園長を中心に確認し合っている。主体性を育む保育環境については、園内でグループ研修に取り組み、他クラスの気になるところや良いところの気づきを話し合う機会を設けて職員間の学び合いを進めている。

一人ひとりの発達の姿を把握し、こどもの気持ちを尊重した保育を行っている

年齢に応じて定期的に発達の姿を確認しながら職員間で共有し対応を考えている。人権については毎月の保育計画の中にテーマを記載し、職員の関わりだけでなくこども同士が互いに尊重する心の育みについても配慮している。発達の過程で生じるこども同士のトラブルの対応については保育者が答えを出すのではなく、それぞれの言い分を聞き共感しながらこども同士のやり取りを見守り、互いに納得し合えるようにしている。また保護者には、お便りや保護者会で発達に伴うトラブルや園での対応について知らせている。

就学に向けてスムーズにつながるよう小学校との連携に努めている

園長は地域で開かれる会合として、保育施設対象のものや保健所や児童館などを含めたこども施設対象のもの、また学校や町内会を含めたものなどの子育て情報会議に参加し情報の収集に努めている。5歳児担任は小学校とのブロック会議に参加し、個々の様子を就学先の小学校と共有して細やかな連携を取るようにしている。小学校に送る保育要録については、これまで担当した職員で記載し園全体で関わっている。就学に向けた取り組みでは、休息の時間を調整したり学校体験等の交流を持ち、こどもたちが就学に期待を持てるよう配慮している。

	評価項目2	子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている	実施状況
	標準項目1	登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○
	標準項目2	発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○
	標準項目3	休息（昼寝を含む）の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○
	標準項目4	降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○

講評

家庭や園でのこども一人ひとりの様子が把握できるような仕組みがある

登園時には、連絡帳や検温票を確認しながら視診を行い、口頭でもこどもの様子を確認している。保護者から聞き取った申し送り内容は、すぐに連絡ボードに記入し担任に引き継いでいる。連絡ボードには日中の様子や降園時に園から伝えたいことも記入できる書式になっており、個々の一日の様子が把握できるようになっている。乳児ではその日の体調・リズムに合わせ朝夕の睡眠に対応したり、こどもの様子を見ながらゴロゴロスペース、畳の部屋などくつろげる場所を選び過ごしている。

一日を通してこどもの生活リズムに配慮し保育を行っている

登園時に把握した様子から午睡時など早めに声を掛けたり眠る時間をずらしたりして個別に対応し、早めに目覚めたこどもにも柔軟に対応している。睡眠時の安全対策として0歳児クラスは5分ごと、1・2歳クラスは10分ごと、幼児クラスでは15分ごとにブレスチェックを行っている。5歳児の午睡については、心と身体のリフレッシュタイムと考え、こどもたちにも伝えているので、年明け以降無理なく午睡回数や時間を調整し就学に向けている。離乳食の進み具合やトイレトレーニングについては保護者の意向を確認しながら、助言をし進めている。

園での食育や健康教育を通して、全職員で保護者に働きかけるよう心掛けている

園ではこどもたちの生活リズムの形成が難しくなっていると感じ、それぞれの専門職の立場から働きかけをしていくよう考えている。栄養士は食に興味を持てるよう親子で行える食育クイズやレシピの提供、こどもたちが季節の食材に触れたり調理に携わる経験の他、パンの食べ方指導など工夫し紹介していた。健康教育では基本的な生活習慣が身につくようこどもがわかりやすく楽しめる教材を作り伝えている。園での様々な取り組みを掲示や保護者会等で保護者に伝えていく中で、保護者支援の視点も配慮のうえ伝えていくよう配慮している。

	評価項目3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している	実施状況
	標準項目1	子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○
	標準項目2	子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○
	標準項目3	子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉（発声や喃語を含む）や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○
	標準項目4	子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○
	標準項目5	戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○
	標準項目6	生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○

講評

こどもの生活や遊びが豊かに展開されるよう、保育の環境づくりを行っている

こどもがやってみたい、参加してみたいと思えるような環境づくりを心掛け、年齢に合わせた玩具の種類や数を整えたり、目で見えてすぐに手に取れるよう環境を整えている。年齢に応じて小グループに分かれ、保育室のほか多目的ルーム等も使ってじっくり遊びこめるスペースを確保している。保育環境については、園内で継続したグループ研修を行っており、他クラスの気になるところや良いところの気づきを話し合う機会を設けて職員間の学び合いを進めている。

こどもが集団生活に主体的に関われるよう援助している

園ではこどもの主体性を大事にした保育を常に考えており、こどもにとって興味関心のあることを選びだし「やりたい」と思える環境を作るようにしている。例えば運動遊びでは、まず運動が好きになるような活動の進め方を心がけ、成功体験や失敗体験などの中からこども自身が気づくことを大切にしている。集団活動の中では、こどもたちでルールを決めたり気持ちを調整する力が持てるように個々の様子を見守りながら、気持ちの切り替えが難しい時はゆったり待つようにしている。

生活や遊びの中に自然物を取り入れ、経験が豊かになるよう工夫している

園庭には遊びに使える草花を植えて、色水遊びをしたり虫探しなども楽しんでいる。実物の虫を見つけて観察したり、見つけれないときは虫の写真を掲示したりして、自然が身近に感じられるよう工夫している。5歳クラスでは、散歩で集めた木の枝を組み合わせて、思い思いの額縁づくりに取り組んだ。自然物には同じものがないので、個々の自由な発想を認め合える機会として、制作活動にも多く取り入れている。

	評価項目4	日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している	実施状況
	標準項目1	行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○
	標準項目2	みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○
	標準項目3	子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○

講評

活動の中でやり遂げた喜びを体験できるよう取り組んでいる

日々の活動の中で、こどもたちが「自分でやった」という達成感を得ることや、誰かに見てもらう嬉しさを感じられることを大事にしている。運動会や発表会、祖父母とのほかほか交流会などで保護者に見ていただいたり、他クラスや職員のお店ごっこに招待したり、制作の完成品を見せに行ったりして、こども自身が認められる喜びが味わえる機会を作っている。活動を通して、さまざまな人との関わりの中で、こどもの自己肯定感が高められる取り組みにつなげている。

こどもたちの興味や関心を丁寧に見極め、計画からこどもも参加で決めている

保育者が決めたものを活動に下ろすのではなく、こどもたちの興味や関心を見ながら計画の段階からこどもたちが話し合いを進めていけるよう支援している。散歩先の公園で見つけたツクシの不思議についてポスター掲示にまとめたり、園庭のアリの謎について話し合うなど、こどもの発想を大事にしている。また訪問時には4歳クラスがホールで大きなバルーンを使った演技を楽しんでいた。こどもたちと運動会について話し合ったところ、子どもたち自身の憧れの気持ちやバルーンをやってみたいという意見が多くあり、取り組みを決めている。

行事の取り組みを通して、こどもたちの成長が保護者に伝わるよう工夫している

保護者には年度当初に一年間の大まかな行事予定をお知らせし、行事前には、行事の意味や大事にしたいことなどをお便りなどで伝えている。行事を楽しみながら達成感や充実感を味わい、また保護者が行事を通して、こどもたちの成長を感じられるよう、行事に向けた取り組みの様子や計画なども途中経過が分かるように写真や掲示等で伝えている。活動内容によっては登園時間の変更や廃材回収などの協力も得て、こどもがさまざまな経験ができるよう働きかけている。

	評価項目5	保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている	実施状況
	標準項目1	保育時間の長い子どもが安心して、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○
	標準項目2	保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○

講評

延長専任の保育者を配置し、こどもが安心して過ごせるよう配慮している

延長専任の保育者が2名おり、こどもの日中の様子の申し送りを受け丁寧に引継ぎを行っている。いつも同じ保育者がいる環境はこどもにとっても大きな安心感を生み出している。初めて延長保育を利用する子どもの様子によってはクラスの職員が入るなど柔軟な対応も行っている。延長保育の内容については毎月計画を立て保育の見直しを行い、延長保育時間だけで使える特別な玩具やゆったりとくつろげるスペースを用意するなどして保育形態が変わってもこどもが安心して楽しく過ごせるようにしている。

保育時間の長いこどもが落ち着いて過ごせるような関わりを大事にしている

朝夕は異年齢の合同保育を実施し、延長保育は月極利用とスポット利用の受け入れを行っている。事務所入り口脇には、延長保育の申し込み開始日や定員の空きが一目でわかるよう、大きなカレンダーボードで記載されている。希望者には補食や夕食の提供も行っている。現在、延長保育を利用するこどもは少人数のため、異年齢児との触れ合いを楽しみながら家庭的で落ち着いた雰囲気の中でゆったりとこどもたちが過ごせるよう配慮している。

	評価項目6	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している	実施状況
	標準項目1	子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○
	標準項目2	メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○
	標準項目3	子どもの体調（食物アレルギーを含む）や文化の違いに応じた食事を提供している	○
	標準項目4	食についての関心を深めるための取り組み（食材の栽培や子どもの調理活動等）を行っている	○
	標準項目5	保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○

講評

こどもが落ち着いて楽しく食べられるような配慮がされている

幼児クラスではひとテーブルの人数を3～4人として、グループの仲間と落ち着いて食事に向かっている。完食を目指すのではなく、配膳時には自分で食べられる量を伝えて意欲的に食べることができるよう工夫している。保育者も同じテーブルと一緒に食事をしながら、落ち着いて安心した雰囲気で食事が食べられるよう配慮している。乳児クラスでは同じグループ仲間に保育者がつき、年齢に応じて自分で食べる意欲が持てるように見守ったり必要な介助を行ったりしながら楽しく食べられるよう配慮している。行事では園独自メニューを作成している。

こどもや保護者にも食への興味や関心が高まるような取り組みを行っている

玄関ホールには丸ごとの野菜に触れられるコーナーや食育に関するクイズコーナー等、親子で興味を持てるよう工夫をしている。幼児クラスでは、クラスごとにかぼちゃ・ピーマン・ゴーヤ・トマトなど栽培活動に取り組み、収穫できたものを実際にこどもたちが味わう機会も設けている。栄養士が主体となって進めている月1回の「おやつ屋さん」では栄養士がおやつチケットや遊び心あるおかわりチケットも作り、こどもたちが買いに行く設定となっている。多目的ルームでのおやつ屋さんは特別感があり、こどもたちも楽しみにしている。

食物アレルギーや離乳食への配慮など、食事の個別対応に努めている

アレルギー対応、宗教食対応が必要なこどもは入園面接時に把握し、適切な対応を行っている。食物アレルギーは医師の生活管理指導票に基づき、個別献立表を作成、除去食や代替食品を提供している。アレルギー食の提供にあたっては、調理や配膳時に複数職員の確認を徹底し、視認性の高い専用トレーや専用食器を用意して対応している。テーブルもアレルギー児専用のテーブルを用意するなど、人為的なミスが起こらないよう様々な対策を講じている。

	評価項目7	子どもが心身の健康を維持できるよう援助している	実施状況
	標準項目1	子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○
	標準項目2	医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○
	標準項目3	保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み（乳幼児突然死症候群の予防を含む）を行っている	○

講評

年齢に応じた基本的な衛生・安全の習慣が身につくよう計画的に保健指導を行っている

看護師の準備する保健教材が子どもが見てわかりやすく楽しめるものとなっており、手洗い・うがい・排便習慣・季節ごとの過ごし方などの衛生習慣が身につくよう援助している。また子ども自身が病気や怪我予防の意識が持てるよう援助している。歯科指導ではクイズや絵カードを使い伝えることで子どもの理解が高まっている。指導後のトピックスなどの実践報告や子どもの姿から保護者の関心や意識の高まりに繋がる様子もみられるが、今後も継続的な働きかけを工夫していきたいと考えている。

医療機関との連携体制を整え、こどもの健康維持に向けた取り組みを行っている

子ども一人ひとりの健康状態は入園時に提出された各種書類や嘱託医による定期健康診断（0歳児毎月1回、1～5歳児年2回）歯科健診（年2回）毎月の身体測定、毎日の健康観察や連絡カードで把握している。送迎時には保護者から体調についての連絡などを連絡ボードに記録して引継ぎを行い、健やかに園生活が送れるように努めている。医療的な支援が必要な場合は保護者から医師の話を詳しく聞いたり、状況に応じて看護師が受診に同行させてもらうなど専門機関との連携に努めている。

感染予防や乳幼児突然死の予防に関する情報発信や啓発に取り組んでいる

年間保健計画を看護師が作成し、個別の相談や保健だより、掲示等で保護者へ保健指導や情報発信を行っている。入園面接時には家庭での就寝状況を確認しながら保育園での午睡時の対応や午睡チェックの目的等を伝えて、同意を得ている。乳児クラスには個別にパンフレットの配付も行っている。感染症が発生しやすい時期には保健だよりや掲示などで情報発信し、感染拡大防止に努めている。

	評価項目8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている	実施状況
	標準項目1	保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○
	標準項目2	保護者同士が交流できる機会を設けている	○
	標準項目3	保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○
	標準項目4	子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○
	標準項目5	保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○

講評

保育のねらいや活動の様子などを掲示し、保護者にわかりやすく伝えている

一週間の活動予定に当日のこどもの様子を書き加えて掲示している。下欄には保護者のチェック欄が設けてあり、保護者にも内容が届いたかどうかわかるようになっている。また、活動内容を写真に収めた「トピックス」がファイリングしており、クラスの入り口に掛かっているので、いつでも振り返って見返すことができる。保護者からのデジタル化の要望もあり、利点を生かしたデジタル化を進めていくことを考えているが、手書きの良さも併せて残していきたいと考えている。

こどもの発達の姿を保護者と共有したり、保護者同士の交流が深まる機会を作っている

年度初めの保護者会では、年齢ごとに発達の姿や生活、遊びの様子を写真を添えて紹介した冊子を保護者に配布している。園での対応や今後の見通しなども記載し、保護者にとって発達について共有できる情報となっている。また、保護者会では、保護者同士が活発に情報交換ができるよう、保護者のみのフリートークの時間を設けている。また、事前アンケートに今の悩みや聞きたいこと等を記入してもらった中から、フリートークの題材をピックアップし、活発な意見交換や保護者同士の交流に繋がるように配慮している。

こどもの発達や子育てについて保護者と認識を共有する取り組みがある

園でのこどもの成長の姿を知ってもらう機会として、年度初めに保護者に保育の参観希望か参加希望か意向を確認している。途中の変更も受け付けており、今のところ参観希望の方が多い。どちらも終了後には感想をいただいております。特に参加（保育士体験）は貴重な経験という声も多く寄せられ、園としても今後はさらに保育参加の希望を増やしていきたいと考えている。また個人面談でのやりとりや「すくすく」カードを活用して、家庭との目標や認識を共有できるようにしている。

	評価項目9	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている	実施状況
	標準項目1	地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○
	標準項目2	園の行事に地域の人参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○

講評

近隣施設と連携し、こどもたちが多様な経験が持てるよう工夫している

5月より4・5歳児は毎月近くにある図書館に行き「お話し会」に参加している。雨天の時は図書館職員の方が保育園に出向いてくれ、定期的な「お話し会」を継続し、こどもたちも楽しみにしている。交通安全教室では、園内で警察官による交通安全指導を受けるほか、5歳児は園外に出て警察官の見守りのもと実際の横断歩道の渡り方の実践を行った。このほかにも「町探検」として商店街を観察したり、お祭りの際にはお神輿で老人ホーム前まで練り歩いた。

こどもたちがいろいろな人と関わりが持てるような交流の機会を作っている

就学前の5歳児では、交流の機会として近隣保育園と互いの演目を見せ合う運動会ごっこをしたり、未就園のお子さんをクリスマス会にお誘いするなどしている。老人ホームの訪問などコロナ禍で一旦様子を見ているものもあるが、状況を見ながら地域の方の運動会のお誘いも今後は広げていきたいと考えている。中学生の職場体験も時期をずらして4校ほどの受け入れを行っており、ちょうど訪問時には職場体験の受け入れ中で、園児と学生が楽しそうに交流する姿が見られた。

サブカテゴリ5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重			
評価項目1		子どものプライバシー保護を徹底している	実施状況
標準項目1		子どもに関する情報（事項）を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○
標準項目2		子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○
評価項目2		サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している	実施状況
標準項目1		日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○
標準項目2		子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○
標準項目3		虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○
講評			
こどもの権利や支援の仕方について、職員間で学びを共有し合い保育実践に活かしている こどもの人権について、年度当初の職員会議で保育士倫理綱領等の読み合わせを行い、こどもの意見に耳を傾けることや肯定的な声掛けをするなど、こどもの意見を尊重する支援の仕方を確認し合っている。また、年2回外部講師を招いた事例検討の勉強会や不適切保育について、保育観察を行う研修などを行い、更なる意識の向上に努めている。勉強会は時短職員も参加できるよう、昼と夜に分けて行っている。今後は園内公開保育も計画されており、組織として学び合いに取り組んでいる。			
こどもの羞恥心に配慮した生活ができるよう、年齢に合わせて保健計画に盛り込んでいる 幼児クラスでは着替えの際、裸にならずに着替えができるよう手順を丁寧に伝えている。毎日の午睡時のパジャマの着替えの経験がこどもたちの生活にも定着している。乳児クラスでは着替えやおむつ替えなど保育者が場所を変えるなど配慮し、幼児クラスでは計測を男女別にしたりパーティションを使ったりして配慮している。これまで個人ロッカーの設定等も男女のすみ分けを行ってきたが、新たにジェンダー（多様性）について園としての取り組みを今後の課題と考えている。			
こどものプライバシー保護について職員間で理解を深め、保護者にも同意を得ている 入園説明会ではこどものプライバシーについて丁寧に説明を行っている。同意書の項目が細かく分かれていて保護者にプライバシーについての同意を得る内容がはっきりしてわかりやすく書かれている。家庭ごとの価値観や生活習慣に配慮しながら、登園時間や睡眠時間、離乳食の進行などを保護者と話し合って進めている。こどもの成長にともない、年度途中で必要性が出てきたときは個人面談等の機会を持つように働きかけている。			

サブカテゴリー6 事業所業務の標準化			
	評価項目1	手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている	実施状況
	標準項目1	手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○
	標準項目2	提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○
	標準項目3	職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○
	評価項目2	サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている	実施状況
	標準項目1	提供しているサービスの基本事項や手順等は改定の時期や見直しの基準が定められている	○
	標準項目2	提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○
講評			
マニュアルは明確に整備され、事務所に保管し、職員は必要に応じて確認できる			
区の安全保育マニュアルをはじめ、日常業務を行う際に必要なマニュアル、手引書は常時事務所に設置され、必要なものは職員に個別配布し理解が深められるよう工夫している。一定水準のサービスの提供を行うために、事故防止マニュアルや人権に配慮した保育のためにマニュアルが整備されており、マニュアル一覧表には、策定期間、見直し予定時期、管理場所が明記されており、年度初めや見直しの必要が生じたときには、必要に応じて職員会議で見直しや読み合わせを行っている。			
業務マニュアルは必要に応じて点検・見直しを行っている			
大田区のマニュアルや法人共通の各種マニュアルの種類が多く、煩雑にならないために、園独自のマニュアルを作成するのではなく、基本的には現在定められているマニュアルを園の活動に合わせ、多少改定を加えながら活用している。アレルギー提供や避難訓練、防災訓練などの手順については、保育の状況や職員の意見などを踏まえ、年度末や防災週間の時期にリーダー会議やプロジェクト担当が見直しを行っている。			
職員や保護者の声を反映し、サービスの見直し・改善に活かせるように取り組んでいる			
行事終了後の保護者アンケートや、個人面談での保護者の意見や要望は園内で検討し、必要に応じて見直し改善を行い、次年度の行事や日常の保育に反映している。例えば、運動会で保護者の撮影ポジションを1か所設けていたが、1か所ではこどもの配置によって撮影しにくいとの意見があり、次回の運動会では撮影ポジションを2か所にするなど、可能な範囲で保護者の意見を積極的に反映して改善に努めている。職員の意向や意見は園長との職員面談で把握し、必要に応じて業務の改善に繋げている。			